

## 肺血栓塞栓症の予防対策実施率

分子 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された退院患者数

分母 肺血栓塞栓症リスクレベル「中」以上の手術を実施した退院患者数

### 肺血栓塞栓症の予防対策実施率とは

肺血栓塞栓症は、下肢や腹部でできた血の塊（血栓）が肺に行く血管（肺動脈）に詰まる病気です。予防には血液凝固を抑える薬剤を使用したり、弾性ストッキングなどを利用することがあります。リスクの程度が一定以上ある手術の時に、予防対策がなされた割合を表しています。

### 指標説明

肺血栓塞栓症は、大きな手術後、ベッド上安静を長くしている場合に発症しやすいとされています。今回の指標では、手術のリスク分類を行い、中リスク以上の手術の前後で対策が行われている率を測定しています。対策に積極的に取り組んでいる病院は率が高くなります。

血液凝固を抑える薬剤（抗凝固剤）を使用できない患者さんや、弾性ストッキングを下肢に着用できない患者さんもありますので、このような患者さんが多い病院では率が低くなります。より高い値を目指しています。